

課題名：患者中心の認知症早期識別・分類AIアプリ開発，ソフトウェア医療機器製造販売体制の構築、並びに販売促進

代表機関／代表者：大阪大学 / スバッシュレバンカル・ガジャン

研究期間：令和7年7月～令和9年3月

クラス分類：II

研究開発目的

- Maya-mind®は、EEG、fMRI、そして眼球追跡などの最先端脳研究を統合し、シンプルなスマートフォンテストとして提供します。
- 10-15分で早期認知症患者を核医学検査並みの高精度で容易に検出・分類することが出来る
- 認知症早期診断の困難さの改善、認知症治療の遅延回避、社会コストの低減を目指す

取り組み・成果

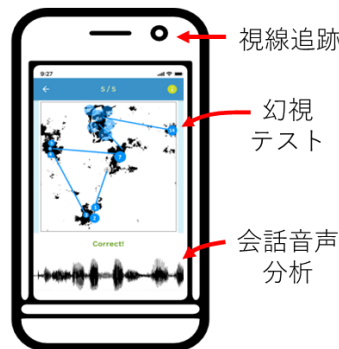
- 大阪大学で神経内科医・精神科医により企画・開発された
- Maya-mind®はコーカソイド、日本人、インド人の各集団で独立して検証されています。
- PMDA対面助言完了、FDA510(k)試験計画承認。

今後の展開

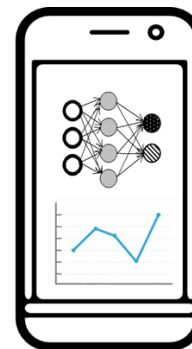
- 償還対応・スケーラブルなSaMD経済性。
- 今後、Maya-mind®は世界中で標準的な早期診断ツールとなり、適時の介入を可能にすることで認知症ケアを向上させることを目指しています。

技術シーズ概要

症状を誘起し定量化するテスト(10-15分)



AIによる認知症の検出・分類認知スコアの表示



POC治験
感度・特異度

健常者	健常 vs 認知症： 94%・90%
アルツハイマー型	AD vs DLB： 87%・93%
レビー小体型	MCI-AD vs MCI-DLB： 80%・100%

特許出願済



Patent no: JP2022/179766;
WIPO: WO 2024/101230 A1 (USA, India, Japan)



大阪大学大学院医学系研究科国際未来医療学講座

- ・Gajanan Revankar 助教（神経内科医）
- ・古屋 剛太 招へい教員

*連絡先 <https://www.maya-mind.com>
www.linkedin.com/in/gajanan-revankar